

◆ 花葉会賞受賞者紹介

地域に根ざし、地域に支えられ

清 住 昇 氏

略歴

昭和20年12月 熊本県上益城郡甲佐町生まれ
昭和39年3月 熊本県立熊本農業高校 園芸科卒業
昭和40年3月 千葉大学園芸学部農業別科修了、花卉専攻
昭和46年4月 就農 花卉生産を始める
昭和48年 大型レジャーセンター開発に参加・造
～52年 園部門の設計施工を担当
昭和48年5月 澄子さんと結婚
昭和52年4月 本格的に花鉢物生産を開始
昭和56年 研修生受け入れ開始

そのほかの経歴としては、熊本県の先進農家で組織する、熊本県農業経営同友会副会長、熊本県指導農業者会副会長を4年、全国的には日本花卉生産協議会・鉢物部会副会長を10年を超える長年にわたり務められ、全国の鉢物生産者との交流も深められました。

広島以西のシクラメン生産者で組織する九州（西日本）シクラメン生産者協議会会長を10年務め、九州のシクラメン生産技術の向上に貢献されています。

これらの業績に対して、平成18年には、熊本県農業コンクール・地域貢献賞を受賞されました。

現在

糸田堰土地改良区理事長・農業委員、先導農家

経営規模：施設面積 5,700㎡（約1,700坪）

中心品目：シクラメン・30,000鉢

カーネーション・50,000鉢（母の日向け）

ブバルディア・30,000鉢

ルクリア・10,000鉢 その他含め20万鉢

労働力：家族（夫婦・長男の3人）雇用 6人

生産は、就農当初は父親が続けていたタバコ栽培から始まったが、すぐに、後継者資金で施設を導入して、花卉生産を始められました。

まずは、九州では珍しかったポットマム生産を、別

科の同級生との連携で始められ、九州で大きく生産が拡大されていく生産の先駆けとなりました。

栽培品目は、時代の流れとともに変遷してきましたが、ラナンキュラスの鉢物の導入など、常に新しい鉢物の導入に心掛け、地域の園芸を常にリードする役割を果たされてきました。

経歴が示すように、地域の農業者の中で大きな役割を果たしている熊本農業高校のネットワークをしっかりとふまえ、早くから農業高校や県立農業大学校、新採県職員、農業高校教諭などの研修受け入れに協力され、後継者育成にも大きく尽力されています。

受け入れ研修生の数は40年余りで、100人余りにも及び、妻である澄子さんのご苦労は花卉栽培とも重なり、大変なものであったろうと思います。

また、1989年（平成元年）熊本市制100周年に当たっては、記念事業として、花苗100万ポット植栽計画を熊本県花卉農業協同組合の役員として、立案実行にも力を尽くされました。

翌年が大阪花博の開催年でもあり、これを契機に、熊本でも、街路や公園の花壇への花苗の植栽が大きく広がっていききましたし、家庭での花苗需要が大きく広がっていく推進力の一つにもなりました。

現在の経営は大学卒業後、派米研修で国際感覚を身につけられた長男がシクラメンを担当し、暑い地域では苦勞の多い、ブバルディアやルクリア（アッサム匂い桜）の栽培も軌道に乗り、新たな品種の導入や、品種改良にも意欲を示されています。

母の日用のカーネーションは、栄養系の品種選択に苦心され、海外からの導入も含め、常に自分の農場に合う品種の選択で受注生産が中心です。

また、ちょうどこの時期に、念願であった長男の伴侶を得ての新たな人生のスタートも決まり、益々の清住フラワーファームの発展が大いに期待されます。

（文責：五嶋映司）



清住氏の温室



シクラメン



ブバルディア

◆ 花葉会賞受賞者紹介

花卉園芸図書の出版に貢献

山田幸子氏

略歴

1947年 3月8日生まれ
1969年 千葉大学園芸学部園芸学科卒業
笠原貞男フローラルアートスクール 講師
1972年 同上 退職
1990年 (有)フローラルプランナーズチーム設立 代表取締役就任
2000～ 横浜市緑の協会評議員
2002～ 日本ガーデンデザイン専門学校講師
2004～2012年 池坊お茶の水学院講師
2014年 (有)フローラルプランナーズチーム解散

企画・編集・執筆した主な本：『花葉』1993～2013年、花葉会編『フラワーランドスケピング』（講談社）1992年、『花のくらし』全4巻（講談社）1996年、『くらしの花百科』（講談社）1999年、花葉会編『アーバンガーデニング』（講談社）2002年、『花色図鑑』（講談社）2003年、『花の歳時記』全4巻（講談社）2004年、『くらしの花大図鑑』（講談社）2009年、『四季の花色大図鑑』（講談社）2010年、NHK学園通信講座『わたし流ガーデニング講座』監修2002年、コラム『四季のガーデニング』（毎日新聞）連載2005～2012年、コラム「山田幸子のガーデニングダイアリー」（『園芸ガイド』主婦の友社）連載2009～
著書：『12か月花づくり庭しごと ガーデニングカレンダー』（講談社）2001年、『わたし流83の花づくり』（家の光協会）2003年、『二十四節気でわかる園芸作業』（主婦の友社）2009年、『決定版はじめての花づくり』（講談社）2010年

フラワーデザイン研究会

山田さんが千葉大学園芸学部に入学したのは昭和40年でした。なぜ園芸学部に入学を希望したかをお聞きしたところ、花が好きだったので園芸学部で花卉装飾が学べるかと思って入学した。ところが生産園芸ばかりで希望とはかけ離れていたとのことでした。

花卉装飾学の講義がなかったもので、当時、日本のフラワーデザイナーとして著名な笠原貞男先輩（昭和26年卒）を講師に招いてフラワーデザイン研究会をつくり活動しています。このことは当時の花卉園芸学教室では、生産に寄与しない装飾園芸を研究対象としていなかった時代ですが研究会を立ち上げた行動力に、花を愛する強い思いを感じます。笠原氏との縁で、卒業後は「笠原貞男フローラルアートスクール」に就職し講師となりました。

(有)フローラルプランナーズチームを設立

1972年同スクール退職後は専業主婦として家庭生活で子育てを行いつつも、家庭園芸の研究をしていま

した。この間に市民のガーデニングの現場を観察し、自らの体験を通して、温めていた構想を実行に移しました。それが「花に関する調査業務、業界誌のフリーライターとして仕事」でした。更に、「1990年 (有)フローラルプランナーズチーム設立 代表取締役就任」となり独立し、花卉に関する新しいビジネスを立ち上げたのでした。これが山田さんの活躍の出发点となっています。

花卉園芸図書の企画・編集と著作

「花葉」の編集は2013年まで、20年にわたり行っています。この間の仕事は本人でなければ分らない苦労があったのではないかと推察されます。本当にご苦労さまでした。

さらに、この間に花卉関係の出版に次々に携わりましたのは略歴の通りです。主に出版業界最大手の講談社の園芸書の編集を行いました。そのスタンスは一貫して主婦の目、女性の立場から見て、実際に即した山田さん独自のガーデニングを提案しています。山田さんの著書は普通の専業主婦の立場とプロの視点で、これからのあるべき花の消費動向を見据えたものでした。花卉園芸学の知識と、主婦としてガーデニングを行っていた山田さんを、講談社は登用し新たな園芸書の出版を任せたいと思います。自著の園芸書の出版は自らの栽培経験に基づいた内容で、植物をよく知っていることは内容を見ればよく分ります。

このような実績が認められて毎日新聞からも園芸コラムを委嘱されて四季のガーデニングを8年間に渡って掲載しています。

教育と社会活動

教育者としてもNHK学園通信講座でガーデニングの講座を立上げ、テキスト等を監修し、また池坊お茶の水学院講師も行うと共に、現在も日本ガーデンデザイン専門学校講師として同校の開校以来今日まで花卉の講座を担当しています。また同校に対しては適切な提言をして支え、発展に寄与しており今年で12年間を経過し、なくてはならない先生でもあります。

地域との交流も深く2000年から横浜市緑の協会評議員として、また、グリーンアドバイザー神奈川支部理事としても役割を果たすなど、公私にわたる幅広い活動は山田氏の花を通じた社会貢献を物語っています。

現今、安倍首相は日本に女性の活躍の場を広げると提唱していますが、既に、「家庭生活・花卉園芸の出版と著述・起業化」の鼎立を見事に果たされています。2014年には会社を解散しましたが、これからどんな「わたし流の園芸の世界」を広げて行かれるかを楽しみにしています。

(文責 小泉 力)